

平成 3 年 9 月 1 5 日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土資料室

(青梅市駒木町 1-684 Tel0428-23-6859)

今も御神体として祀られている石棒について

市内に数多くある縄文時代の遺跡の中で、時々発見されるものに石棒（せきぼう）があります。これは、石斧や土器のようにいくつも発見されるものではなく、かけらを除いたら、ほぼ完形に近いものは10本たらずのものとなっています。発掘調査によって出土したものは少なく、たまたま畑を耕して出てきたものがほとんどです。

そのかわった形や細かな作りから、掘り出した人々は“特別なもの”として扱い、信仰の対象として、また、遺跡をかたる重要なものとして今も保管されています。今回はこれらの石棒についてご紹介をいたします。

◎「おしゃもじさま」の石棒

東青梅駅から北東へ道なりに約900メートル行った、勝沼城址南東側登り口、湧泉池近くに小さなお堂があります。これは通称「おしゃもじさま」と呼ばれるところで、堂内には絵馬やおしゃもじと共に石棒が祀られています。

石棒の出土地点として確たるものは残されていませんが、勝沼城址一帯は縄文時代の遺跡としても知られており、この地域から出土したもので、昭和39年11月3日付で青梅市有形文化財に指定されています。

大きさは、長さ89センチメートル、最大直径14センチメートル、材質には砂岩が用いられています。先端は二段にくびれており、胴部中央には少しの剥離があるものの、全体的には完形のものとなっています。

◎「宮越・飯網権現」の石棒

青梅市梅郷六丁目、下山八幡神社西側を沢に沿って登って行くと、山頂へじかに続く急な石段があります。この頂上には飯網権現の社があり、その中には御神体として石棒が祀られています。

文献によると大小二本の石棒があるとされていますが、現在は大きい方の石棒だけがあります。最大径17センチメートルで、左側には63センチメートル分、右側には43センチメートル分と、1本が2つに分けられて祀られています。

出土地点としての記録はありませんが、付近には『山の神戸遺跡』や中郷原の散布地をひかえているため、おそらくそのあたりからの物と考えられています。

◎「西城遺跡の「天六九明社（麻羅地蔵）」

二俣尾駅南側、多摩川が蛇行してできた舌状台地上が西城遺跡です。

ここの畑中央に小さな社を設け、天六九明社（麻羅地蔵）として石棒が祀られています。長さは6尺以上（青木重三氏確認）、最大径17センチメートル（地表面）のもので、天保年間以前にこの畑を耕作中にでてきたものとのことです。

このように今でも祀られている石棒は、何らかの儀礼的なものと考えられ、特に、多産や安産に関するものとしての見方がされています。

(文責 鈴木晴也)